

課題番号 : 29指1022
研究課題名 : 輸入感染症の初療に携わる看護師の準備性と教育に関する研究
主任研究者名 : 森 那美子
分担研究者名 :

キーワード : 看護師、輸入感染症、準備性、尺度、教育プログラム
研究成果 :

【背景】昨今の世界規模での感染症流行は、交通・運輸の高速化や諸外国からのアクセスの増加などにより、日本でも脅威となっている。具体的には、訪日外国人の「持ち込み」や日本人の「持ち帰り」によって、外国で流行し日本ではほとんど見られない伝染病が「輸入感染症」として流入するリスクが高まっている。本研究の目的は、増大する輸入感染症リスクへの対策の1つとして、看護師の輸入感染症対応への準備性を測定・評価し、必要な教育プログラムを提供することによって、輸入感染症初療時に安全かつ適切な看護を提供できる看護師を育成する事である。平成29年度は、輸入感染症対応への準備性を測定する尺度の開発を行った。

【方法】

1) 看護師の輸入感染症初療対応能力尺度案の作成

関連分野の網羅的な文献検討より、輸入感染症対応に必要な看護師の準備性（知識、技術、態度等）項目を抽出し、95項目からなる尺度案を作成した。NCGM倫理委員会の審査・承認を経て、作成した尺度案の適切性を測る調査を行った。

全国の医療施設8480施設より、救急医療や一般外来を扱わない可能性の高い精神科単科病院・リハビリテーション病院・重度心身障害者療養施設などを除いた5650施設から層化無作為に抽出した、450施設1350名（1施設3名）に調査票を配布した。当該施設の初療担当部署に勤務する看護師に回答を依頼した。調査は郵送法で行った。

2) 尺度案の信頼性および妥当性の検証

分析対象データをPCに入力後データクリーニングを行い、統計ソフトウェアSASにて尺度の信頼性および妥当性の検証を行った。

【結果】

回収期日までに返送された調査票は442通であった。回収された調査票のうち、欠損データがあった46通を除外し、396通（有効回答率29.3%）を分析対象とした。

- 1) 尺度案95項目について、天井効果-床効果の検証を行った。得点の分布は平均値±1SD内にあり、全ての項目で天井効果-床効果がないことを確認した。
- 2) 95項目についてI-T相関分析を行った。相関係数0.7以上もしくは0.3以下だった6項目を尺度案から除外した。
- 3) I-T相関分析を経て残った89項目の項目間相関分析を行った。相関係数0.7以上を示す組み合わせ15組を検証した。各組で項目の類似性、具体性、初療への関連性を検討し、具体性・関連性の低い27項目を尺度案から除外した。
- 4) 項目間相関分析を経て残った62項目の探索的因子分析を行った。プロマックス回転にて因子数の抽出を行ったところ、3因子構造が得られた。3因子構造と仮定して再度因子分析を行い、最終的に3因子40項目が得られた（クロンバック α 係数; 0.952）。

【考察】

現在、各因子の構成項目について内容検討を行っている。平成30年度は本尺度を完成し、全国の初療担当看護師を対象に調査を実施し、対象看護師の準備性を解明する。さらに全国的な看護師の輸入感染症に対する準備性の傾向を基に、強化が必要な部分に焦点を当てて教育プログラム案を作成する予定である。

Subject No. : 29-1022
Title : Nurses' readiness and training program for imported infectious diseases.
Researchers : Namiko Mori-Yoshikawa
Key word : nurse, imported infectious diseases, readiness, scale, training program
Abstract :

[Background]

Epidemics of infectious diseases in other countries have become a threat to Japan due to the increased speed and ease of transportation and travel.

The purpose of this study was to provide a nursing training program for imported infectious diseases and to train nurses to use safe practices during visits with patients with imported infectious diseases.

[Methods]

In 2017, we developed a scale to measure nurses' readiness to respond to imported infectious diseases.

We conducted a comprehensive literature review of related fields and extracted the knowledge, skills and attitudes necessary for nurses to readily respond to imported infectious diseases. A scale consisting of 95 items was created. After examination and approval by the National Center for Global Health and Medicine (NCGM) ethics committee, we conducted a survey to measure the appropriateness of the scale.

We mailed survey forms to 450 facilities and requested the participation of three nurses who belongs to initial treatment section or emergency department section at each facility.

We verified the reliability and validity of the scale with SAS statistical software.

[Results]

A total of 442 survey forms were returned and 396 were valid and included in the analysis.

Ceiling and floor effects were checked. Then, item-total correlation analysis and inter-item correlation analysis were performed. The remaining 62 items were subjected to exploratory factor analysis. Finally, three factors and 40 items were obtained for the final version (Cronbach's $\alpha=0.952$).

[Discussion]

Currently, the contents of each factor and item are being examined. We completed the scale in 2018, conducted a survey of nurses nationwide, and clarified the readiness of nurses to respond to imported infectious diseases. We plan to create a draft training program for nurses based on the tendency of nurses to readily respond to imported infectious diseases.

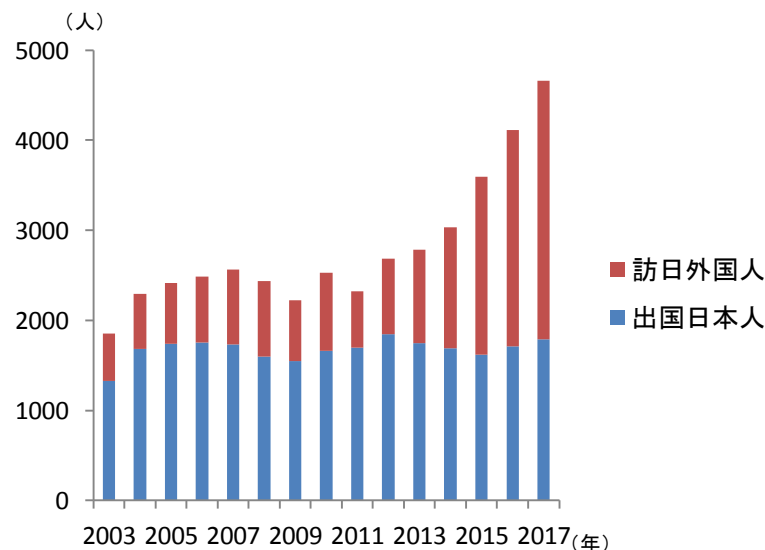
研究課題名：輸入感染症の初療に携わる 看護師と教育に関する研究

主任研究者名：国立看護大学校 森 那美子

背景：グローバル化によるヒト・物の交通量の増加は、感染症の流行状況にも影響を与えている。近年、訪日外国人・出国日本人が増加しており、一方2009年パンデミックインフルエンザH1N1流行や2014年デング熱国内伝播、2016年・2017年海外由来麻疹流行等が国内で発生している。今後もヒトの移動に伴い、輸入感染症例が増加すると考えられる。

輸入感染症に適切に対応できる医療施設・医療人材の整備が急務である。

研究目的：看護師が適切に輸入感染症初療対応を行えるようになるための、評価尺度と教育プログラムを作成する。



日本政府観光局データより作成

研究手順と2017年度の成果

2017年度
「看護師の輸入
感染症初療対
応能力尺度」の
作成

2018年度
「看護師の輸入
感染症初療対
応能力尺度」に
よる実態調査

2019年度
実態調査結果を
基にした、教育
プログラムの
作成・実施

2020年



http://rugby-jp.com/worldcup2019/news_single.asp?id=109667&page=3



<https://tokyo2020.org/ja/games/emblem/>

- 1) 文献検討と予備調査を基に、95項目からなる「看護師の輸入感染症初療対応能力尺度案」を作成した。
- 2) 尺度案の適切性を確認するために、全国から抽出した450医療施設の初療部署勤務看護師(各施設3名)を対象とした調査を行った。
- 3) 442通の調査票が返送され、そのうち396通を分析対象とした。
天井-床効果検証、I-T相関分析、項目間相関分析、探索的因子分析を行った。

4) 最終的に得られた3因子40項目(クロンバック $\alpha=0.952$)による「看護師の輸入感染症初療養対応能力尺度」を作成した。

成果

- 5) 次年度は本尺度を用いて、全国の看護師の輸入感染症初療対応能力実態調査を実施する。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：29指1022

研究課題名：輸入感染症の初療に携わる看護師の準備性と教育に関する研究

主任研究者名：森 那美子

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
該当なし				

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。